



内なる庭

戀ル・ネストゥール

白花しらはなが答える声は夢に浮く雲のちぎれるさやな音ほど

端白つまじろに見える脚さき朝蜘蛛の仕掛ける罨に落つ露玉の子

奇くしきなる壺の形の我が庭に棲める葉影のみな空を向く

直心ひたごころになおも絡まるからくりの糸をやにわに切る揚羽蝶

芍薬しゃやくのとじたる蓄かたくなに我の二十歳の眦まなむりにも似ゆ

頬丸き薔薇の実を切る春の日に抱くことなき子の名を想う

夢深しうつつも深し白ぎゆく額の奥の円き我が庭



挿絵：ミサヨ